“三方よし”の職場づくり

福岡市●吉崎謙作

本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にＮＰＯ法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第15回

「より開かれた美術館」を目指した美術館のリニューアル

「中間層」へのアプローチ

今年3月21日、2年半の休館を経て福岡市美術館がリニューアルオープンした。リニューアルのきっかけは施設設備の老朽化への対応だが、これを契機に、これまで美術館を訪れることが少なかった人（「ファン層」と「無関心層」の間にいる大多数の「中間層」）が訪れやすくなるよう「より開かれた美術館」とすることが、私たちのもうひとつのミッションだった。

そのために、公園側に新たに入口を整備し、カフェやショップを新設したり、所蔵コレクションを積極的にＰＲした広報の展開などに取り組んだ。その中で、特に「職員」「組織」「地域」の力が発揮され、「三方よし」が感じられたエピソードを紹介したい。

従来の発想にプラスする若手職員のアイデアと行動力

通常、展示している作品には、必要最低限の情報が書かれたキャプションしかないことが多い。そのため、「中間層」にとってはどのような視点でその作品を楽しめばよいのかが分からず「アートは難しいもの」と思われがちだ。

そこで採用4年目の若手学芸員が各学芸員に呼びかけて、作品にまつわる「おもしろエピソード」を集めることにした。そして、集まった作品のエピソードを、学芸員それぞれがつぶやいているような似顔絵入りのデザインで吹き出しを付けて、正式なキャプションの近くに掲示すると、ＳＮＳでも「おもしろい！」と評判をよんだ。

危機を乗り越える組織力

リニューアルオープンの式典は当初、新たに設けた公園側の入口に面したアプローチ広場で開催する予定だった。しかし、当日はあいにく雨の予報。残念ながら屋内のホールで実施するよう、準備を進めていた。ところが前日の夕方、式典の時間に雨が止みそうな予報に。そこで、急遽アプローチ広場での開催に変更した。二転三転したにもかかわらず式典は華やかに開催された。それは、職員と事業者の一人ひとりが役割に応じた機転を自主的に利かせ、相互に助け合って動くことができたからであり、組織力の賜物といえる。

地域が率先して盛り上げる広報

美術館の近隣地域が主催する新年会が開催された際には、市民から「美術館オープンを楽しみにしているよ」という声をたくさんいただいた。そして、一緒に話をしているうちに地域の方同士が、「美術館周辺に数十か所ある各町内の掲示板にポスターを貼ろう」ということになり、様々な地域のお知らせ事がある中、こちらから依頼したわけでもないのにスペースを割いて美術館の大きなポスターが貼られるようになった。掲示板を見ると、「より開かれた美術館」を作ろうとしているのは美術館スタッフだけではなかったということを実感し、目が潤んだ。

職員と地域の心をひとつにしてオープンした福岡市美術館は、著名なアーティストの特別展にひけをとらないほど多くのお客さんで、連日賑わっている。

governance06-064 64
2019/05/21 18:20